



おーい！くじらぐも

Vol.9 2022年（令和4年）3月号

発行人：社会福祉法人健翔会 くじらぐも

所在地：埼玉県行田市小見1141番地1

TEL：048-580-3634 FAX：048-554-8814

MAIL：kujiragumo@kenshokai.net

発行責任者：くじらぐも センター長 細川竜太

福祉サービスを利用するためには「くじらぐも」が作る『サービス等利用計画』が必要です。

「くじらぐも」は障害者総合支援法により、障害者・障害児に対し相談支援事業を提供する健翔会の第4号事業所です。

計画相談についての新規契約や事業所の変更など、まだ若干余裕がありますのでお気軽にご連絡ください。



就労移行支援事業所（働くスキルを身に付ける）
とも繋がっています。



福祉用具のご相談も承ります。現場で培ってきたノウハウを生かし丁寧にご提案します。



コロナ禍で、担当者会議等も
WEB会議での対応となっています。

『叱る(しかる)依存とは？』

ご利用者・ご家族からの相談のなかで、俗にいう依存症と言われる案件での相談も増えています。代表的なものだとアルコールや薬物・ゲーム・ギャンブルなどです。そのなかで、ある公認心理士の方が「叱る依存」という問題提起をしました。叱る側のニーズを強く満たす側面があり、叱らずにいられない依存的な状態に陥ってしまうことです。人はなぜ「叱る」のでしょうか。その人を思い、間違いに気付かせるために叱る。ある芸能人は、後輩をずっと叱ってきましたが、数年前からやめました。理由は、叱る行為は、自分の欲求でしかないことに気付いたからだそうです。それから、後輩たちはもっと生き生きと自分に関わってくれるようになったと。あるオリンピック選手は、叱ったあとの瞬間は何をすべきかわかるが、反省や学びには繋がらないと。叱る行為は叱る側が気持ちよくなり快感を伴うことでやめられなくなり、上下関係をはっきりさせる行為とも解説していました。

例えば、自分の子供が急に道に飛び出しトラックにひかれそうになったら、ほとんど人は叱る行為になると思います。それは、危ないことを教えないといけないと考えるからです。その公認心理士の方が言うには「叱っちゃダメならどうすれば？」と思っている時点で、起こった後のことしか考えていない。」いわゆる、予測力が問われるとも説明していました。そして、叱る行為からは何も生まれないと。とても難しい依存の形ですが、私も現場にいるときに上司から「知的障害者の人に叱っても（怒っても）伝わりにくいから、どうしてほしいのかを教えるんだよ。」と指導されました。そのときを思い出しながらウンウンと納得した時間を過ごしました。

<3月のトピックス>

とある市役所でのことです。お母さんと2～3歳ぐらいの子どもが市役所の玄関前で格闘？していました。お母さんは用事があるようで早く帰りたい様子、子どもはまだ帰りたくないとお母さんから離れていきます。お母さんは繰り返しタイミングを見ながら子どもに近づき、それでも子どもはお母さんから逃げる逃げる。気が付けば2人の距離は30mぐらい離れてしまいました。

車の通りもあることから、私は子どもの方へ回り見守りました。すると、お母さんが準備したのが子どもの好きな、しまじろうの指人形です。お母さんは「〇〇くん。しまじろうと一緒に帰ろう。」と話すと、子どもは素直に「ウン。」と言ってお母さんと手を繋ぎ、車に戻りました。子育ての大変さ、創意工夫の大切さ、母親強しの場面に遭遇して、感心してしまった時間を過ごした私なのでした。